



hina no marebito のまれびと

人々で暮らした。太田川には死体が多数浮かび、死臭が凄かった。あんたらを同じ目に遭わせとうない」など原爆の凄惨さを心に刻ませた。藤森氏は赤子の時は

昭和20年8月6日、広島市に原子爆弾が投下された。これは米国による人類史上初の核兵器での都市攻撃だった。結果、56万人が被災、その年14万人が亡くなった。広島市牛田(現・東区牛田)で被爆した藤森俊希氏は、広島市立第一高女1年の姉を喪った。氏はまだ1歳4か月で当時の記憶がない。一家は毎年8月6日に広島平和記念式典に参加し手を合わせる。自宅へ戻ると、母親が疎開していた姉兄達に「原爆で自宅全焼。山へ逃げた。焼け残った木々で掘って立て小屋を建て家族11

核兵器禁止条約の発効を目指す

日本被団協事務局次長
長野県原爆被害者の会会長

藤森俊希氏 (75)



火傷のために医師から「助からんだろう」と宣告された。小学校に上がる直前まで、しばしば母親に背負われるほどだった。が、中学では野球部に所属し3年で主将・捕手を務め、早稲田大ワンダーフォーゲル部では名山を踏破するなど元気に勉強とスポーツに勤しんだ。

62歳で定年退職し、福生市から長野県茅野市に転居。同時に長野県原爆被害者の会に加入すると「手伝ってほしい」と言われた。相手は同じく広島出身の被爆者で日本原水爆被害者団体協議会(被団協)草創期のメンバー前座良明氏。長野県立科町の語り部が好評で次第に依頼が増え、前は座氏の推挙で日本被団協事務局次長に就任。2017年3月に国連で家族を喪ったことと核兵器を廃絶しようと呼びかけたことと大きな拍手を得た。「とにもかくにも122カ国が核兵器禁止条約に賛成している